

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

# 蓬萊町だより

第八十三号  
平成 25 年 7 月 25 日  
発行 蓬萊町会

ご挨拶

町会長 大畑清心

木々の緑色濃くなりあじさいのすがすがしい季節となりました。会員の皆様には日頃より町会活動へご協力を頂きありがとうございます。心より篤く御礼申し上げます。

さて、多くの犠牲者が出ました東日本大震災のあの悪夢も早や二年が過ぎました。先日福島いわき市に行く機会がありました。四倉の地に行きましたが今だその傷跡が痛々しく残り復興もまま為らず被災者からの悲鳴の声を聞かえてきます。一日も早い復興を願わずには居られません。

本城前町会長の後を引き継ぎ早や二年が過ぎました。町会員、役員の皆様の暖かいご支援ご協力を賜り心より篤く御礼申し上げます。これといった実績も残せず無我夢中で各事業に取り組み此処まで来ましたが、引き続き二期目もお引き受けいたしました。

五月には平成二十五年度総会を開きました。初めての町会員総会で役員の皆様には準備に

大変ご苦勞頂き総会を終わることができましたが、是非町会員総会には皆様のより多くのご出席をお願いしたいと思います。

本年は八月二十五日(日曜)、二十六日(月曜)には恒例の盆踊りが開催されます。皆様に楽しんで頂けますよう文化部を中心に検討いたしております。楽しみにして下さい。

先日、前々町会長の三宅英三様が死去されました。永年当町会活動にご尽力を頂きましたことに敬意を表すとともに心よりお悔やみ申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様をはじめご家族ご一同様のご健勝とご繁栄を心よりご祈念申し上げます。

## 町内探訪(9)

### 勝林寺のこと その四

本城康至

先ずお詫びから。前号3頁目下段の 勝林寺の開創―嵩呼山少林寺 の嵩は崇の校正ミスでしたので訂正下さい。

さて、私の「しょうりん寺もの語り」は前号に引きつづいて、「萬年山勝林寺の沿革概要」の大事じに揃えて進めますが、内容が蓬萊町の歴史としては、その草創期にあったこととなりますので、構成を少し変え、視点も

町寄りになると思います。

仕事を始めてみて、前号に書いた鈴木理生さんの指摘 ―多くの江戸の地誌の記述上の共通的特徴は、江戸市街と江戸城がある程度出来上がった時点から書きはじめる。・・・中略・・・くり返すが草創期の江戸の原型についての記述はほとんどない― ということを実感させられました。

そんななかで、沿革概要の記録は、家康の譜代の武将たちの江戸入り前後の動静を記録した有名な「松平家忠日記」を補うに値する貴重な歴史資料だと評価しています。

同時に、家康が十数人の側室のなかで、もつとも心を許し、寵愛した一人の女性の帰依寺が主題のお寺であったことは、町にとって大切な話です。

彼女は激動の時代の中で禅門に育ち、その素養が彼女の血筋と重なり、後年「吾妻鏡」を愛読した家康の心をとらえたと推量されます。

また、家康の子や孫たちの養母となり、その母性としての器量も、一才年下の春日局との間の友誼も、徳川三代の流れの中で重要な存在であったことがわかりました。

側室としての彼女は、没後には徳川家浄土の地に往く身でしたから、帰依寺への思いは常に心にあり、晩年は勝林寺隣接の太田備中別邸で療養し、心の故地で亡くなりました。禅は意志の宗教と鈴木大拙は書きましたが、

彼女の意志は、その後の勝林寺の存立を支えました。

本稿の終りでは、明治から昭和にかけての勝林寺のことも書きとどめるつもりです。

では記述を進めます。前号で「勝林寺のこ」とは、寺が具体的な歴史記述として、わが町域に最初に建てられたお寺になりーと書きましたので、このところは沿革概要の原文のままを記載し、必要と思われる点は別に説明或は私見を述べる形と致します。

#### 小田原役、江戸城陥落と正林出丸

天正十八年（一五九〇）豊臣秀吉の北条氏の居城小田原城包囲のとき、先陣の徳川家康は戸田忠次を徳川先遣隊長に任じ、大阪での人質を解かれて参戦した初陣の松平忠吉（家康四男）をこれに付して江戸城攻略に当らせ四月二十二日落城となる。城の接収に当たった先遣隊は東の正林出丸泊船亭で少女「おはち」を保護し、彼女が太田道灌の嫡曾孫源六郎康資と北條氏康養女とを父母として江戸城で生まれたことを確認、忠吉より家康に報告される。

#### （註）

忠吉は天正八年（一五八〇）家康三十九才、母於愛の方十九才の時の子で、幼名を於次または福松丸といった。二代將軍秀忠（家

康三男）とは同腹の子であり、秀忠とは大変仲が良かった。概要の記事の時は十才。

概要筆者はここで、大阪での人質を解かれてとしているが、この記録は他の資料には見当たらない。

また、江戸城攻略については当時の諸状勢を説明しておく必要がある。

小田原の北条氏は、早雲以来氏綱・氏康・氏政・氏直と五代にわたり、すぐれた民政をもって関東を治め、秀吉の上洛の招きに応じず、小田原の役の因を作った。秀吉の北条攻めは、小田原城の包囲だけに主力を注がず、関東に展開する北条騎下の支城攻めから迫った。

四十余と云われる支城は、城主の諸將が小田原にあり、ほとんどの支城は戦わずにして秀吉・家康軍に下った。

江戸城も川村兵衛部大輔秀重が城代をしており、間に立つものがあり、徳川の軍門に下ったと云われている。

唯一小田原落城後も戦い抜いたのは、武蔵の要衝忍（オシ）城で、城主成田氏長が小田原にあって不在の中、娘甲斐姫が開城を拒み、石田三成軍の水攻めに屈せず戦い、後世に名を残した。松平家忠・忠吉を初期の城主とした家康の気持ちが変わる。

少し余談にそれだが、四月二十二日は戸田三郎左衛門忠次が検使として城請取りに赴い

たので、概要の落城の運びとはこのことを記述したと考えられる。

この時松平忠吉（福松丸）が同行した記録は他にない。江戸城請取りに四男福松丸を付したのは、当時の諸状勢のなかで、家康が江戸城を居城にすることの意志表示であったともとれる。

「おはち」のことは別な主題でもあり後述にまとめることにします。

#### 徳川家康江戸入城と正林寺移転ー萬年山

#### 正林寺

天正十八年七月十二日北條氏は降り、翌日の論功行賞で戦功第一の家康は広大な北条領を与えられて転封、同年八月一日、荒れ果てた後北条氏の支城であった江戸城に入城する。後世これを江戸お打ち入り或は関東ご入国と呼ぶ。家康は城中殿舎の建造を後回しとし、直ちに家臣の知行割と共に屋敷割に着手。このため正林寺出丸は廃され、正林寺は一年以内に駒込・本郷・谷中の地境三つ谷（みつや、現在の向ヶ丘一丁目、旧町名は蓬萊町）の地に居抜きのままの移転を命ぜられる。

正林寺を本陣として江戸城接収に当たった松平忠吉は、後見役の義兄松平康重（騎西城主二万石）と共に家康から正林寺支配を命ぜられ、江戸御打ち入りに同行した家康の家臣、根来鉄砲隊与力支配の崎山宮内（江戸期勝林

寺の檀家総代第一号)に命じ、松平康重(周防守)領内の小松原城跡に建つ東光寺(奇しくも、後の老中田沼意次候七代の祖で忍城主成田氏の将として、後北条氏との戦で永禄八年戦死した田沼山城守重高を弔い成田氏が建立。後意次公が再興。)の材を運び三つ谷に移転した翌十九年移転を完了する。このとき、忠吉・周防守康重の両松平より、故地亀山を末長く記念するよう久遠の意味を持つ萬年山正林寺を称する。

(註)

右記(一)内は沿革概要の著者、傍点は筆者

天正十一年(一五八三)三河・駿河・甲州・信濃(南半分)五か国の領主となった家康は、隣接する北条を意識して、次女督姫を領主北条氏政の子氏直におくる。それもあつてか、前記のようにその支城をほとんど失った小田原方からは、徳川軍に内通するものも出て、小田原の北条軍は一族全員が降伏するまでに至った。

七月十三の論功行賞に当って秀吉の周辺では、家康と北条との縁故をもって家康の心中に疑いありとするものもあつたが、小田原の役の前の約束通り秀吉は家康に関八州を与えた。

家康の周辺でも京都に近い前五か国からの国替えに異議があつたが、家康は関東の地を

選んだ。関八州の居城をどこにするかも課題であつたが、舟入りの条件から江戸とした。この点は秀吉の所見と家康の考えは一致していた。但し、用心深い家康は江戸城を中心とする江戸の開発計画を秀吉の死を待つて実行した。

入国直後の家康は、城をそのままにして、城の周りの屋敷割りを急いだ。城は遠山氏の居宅と本丸・二の丸・三の丸だけで、二つの丸は福松丸と御方様家康の生母水野氏(於大の方)(伝通院夫人)の住むところとなり、後に両所を合わせて本丸とした。

この知行割りと屋敷割りは、総奉行として榊原康政があたり、入国直後の八月から始められた。それは旗本のうち小身物などは城の近くに、大身は北条の旧城をもらつた。そして、江戸から一夜泊りの十里以内に有力な直臣をおき、本城としての江戸城の城付とした。奉行衆には青山忠成・内藤清成・本田正信・高木正次など譜代のものが当り、その屋敷はひとしく砦の役割を備えていた。中でも榊原はもつとも要樞の地として奥州を臨む湯島の地に居を与えられた。

一方で、家康は北条氏の歴代の家臣・武功者の搜索を松平康元に命じ、家臣とした。その一人が前号末尾に書いた道灌直系五代目に当たる太田資綱であつた。家康は泊船亭で保護した「おはち」が資綱の妹であることを知り、膝をたたいて福松丸を誉めそやしたであ

ろう。

家康は直ちに、腹心の松平康重を福松丸の後見役として正林寺支配を命じ、あわせて正林寺を三つ谷の地へ移転を指示している。

家康は小田原の役を通じて、上野・下野・常陸を望む要衝の地忍・騎西から岩槻を経て江戸への道をよく知っていた。彼は太田氏と本郷台地の故事からこの地を早々に太田へ屋敷割りをしていたはずである。

神田山南東の地から居・拔・き・の・ま・移・転・を・命じたのは、数千に及ぶ家来衆の屯所にせまられていたからでもある。

東光寺の材を運んで翌天正十九年正林寺の移転が完了し、萬年山の山号が与えられた。ここで「松平家忠日記」では、家康はこの年の秋、放鷹のため岩槻から忍へにかけている。彼は入国直後の指示を榊原康政に与えると、同年秋から十九年春まで秀吉の采配に従って奥州に出向いていたので、江戸に帰り気晴らしに放鷹と称し要衝の地の検分をした。その道中、彼は正林寺のことも当然見とどけているはずである。江戸城中でくらし始めた「おはち」十四才の土産話のためにも。

ここで「三つ谷」について。

「三つ谷」という名称は、わが町域を含む地形上の特徴に由来している地名くらのこととは考えていたが、江戸学の先人矢田挿雲氏の鳶坂談義のなかに下記の記述がある。「現

在の上富坂町・下富坂町を餌指町と称し、そこから春日町交差点へ下る大きな坂を鳶坂と称した。・・・中略・・・鳶坂を下り切ったところの谷を二ヶ谷といった。駒込の三ヶ谷も、この二ヶ谷もとづくに忘れられて今は四ツ谷の称が専ら知られている。「これは昭和二十年代の記述であるから、その昔はよく使われていたと思われ、想像すると三つ谷の地名は道灌の頃或はその前からあったと思われる。

歴史記録としては、正徳三年（一七一三）に代官支配地を町奉行と両支配地にしたことが知られていて、三つ谷のあたりは湯島麟祥院（春日局）領の百姓地であったが、元文二年（一七三七）には町屋がゆるされていた。下って、延享二年（一七四五）寺社門前町は、寺社奉行と町奉行の両支配地とし、行政面は町奉行支配とした。この記録の中に駒込三つ家町があり、同じ麟祥院領の駒込肴町もある。元文三十六〜四十年頃できた蓬萊町の前身「四軒寺町」は麟祥院領ではないが、同様の扱いである。

三つ家町は、一八五三年の嘉永図に町名の記載はないと云うが、「本郷の寺院」には「御府内備考」を引用し、その範囲を記述してある。

即ち、「一、四隣 東方往来を隔勝林寺・浩妙寺、南の方往還を隔御書院番組屋敷、西の方 西善寺、北の方正行寺門前」と。

そして、三つ家町という名の起りは、この地区に三軒の家作があったからだと言われていると云う。いづれにせよ、歴史伝承としては「みつや」の地ということになる。終わりに、勝林寺にとつて掛替えのない二人の松平氏について記しておきます。

#### 松平忠吉

家康の第四子、出自については二頁に書いた。天正九年、三河東条城主松平甚太郎家忠が没し実子なく、家康は二才の福松丸（忠吉）を嗣子とし、松平康親に補佐させた。天正十八年十才の時元服、文禄元年（一五九二）武蔵忍城十万石の領主となった。忠吉二十才の時、関ヶ原で腕に鉄砲傷をうける。全年軍功により尾張清須城五十七万石に封じられる。しかし、この傷がもとで腫物を煩い病氣勝ちで、家康・秀忠の配慮も空しく、慶長十二年（一六〇七）二十八才で亡くなる。彼は弓術を奨励し家来に弓の名手が多かった。また、禅家の修業に励んだが嗣子なく家は断絶した。

#### 松平周防守康重

松井松平周防守康親の子。康親は初め松井左近将監忠次といい、若き家康に仕え重用され、吉良義昭との戦いの功により、松平の称号と家康の一字をもらい、松井松平周防守康親と名乗った。前記松平甚

太郎家忠の父は義春といい、三河で討死し、康親は家康の命により家忠の家老となった。しかし、この松平甚太郎家忠も二十五才で没し、嗣子なく、東条松平家は義春・家忠の父子二代で断絶した。

家忠は家康三河十六将中の一人である。家康はこの故をもって第四子忠吉を家忠の嗣子とし、江戸入りでは、松平康親の子康重を後見役とした。

なお、松平義春の妻が松井左近将忠次即ち松井康親の妹であることを付記する。

ここで一言。「松平家忠日記」の家忠の正式名は、深溝松平主殿介家忠で、家康よりも十三才若い。入国当初の忍城主となり、彼のあと忠吉が忍城主となった。

二人の松平家忠には、素人歴史探訪を手間取らせた。

つづく



蓬萊句壇

ブランコにそっと坐ってゆれてみる 井上海月子  
 たそがれや消え入るようにしじみ蝶 野出園蝸  
 こころもち斜めが似合ふ夏帽子 森ゆかり  
 若葉見てブロッコリーを買いに行く 藤井明世  
 夏めくや青くふくらむ心の帆 後藤周平  
 行く春や山河いまだに癒えぬまま 岡部恒田  
 眼科医の順待つ孤独目借時 池田南北

訃報

溝口清太郎様 92歳 向丘 2-27-25  
 久貝妙子様 95歳 向丘 2-25-10  
 広澤葉子様 85歳 向丘 2-27-22  
 川瀬芳孝様 77歳 向丘 2-15-8  
 鈴木眞澄様 60歳 向丘 2-15-12  
 野呂瀬ひさえ様 100歳 向丘 2-36-1  
 小池敏様 75歳 向丘 2-25-14  
 富岡勝成様 68歳 向丘 2-15-12  
 三宅英三様 82歳 向丘 2-27-1  
 心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成24年度収支決算報告書			
自 平成24年4月1日～至 平成25年3月31日		蓬萊町会	
収入の部		支出の部	
前期繰越金		各部支出	
現金	50,000	総務部費	1,071,367
普通預金	2,279,248	婦人部費	225,598
町会費	1,636,300	文化部費	213,444
受取利息	283	防火防災部費	153,657
子供半纏代(返金)	400,000	防犯部費	82,400
		交通部費	88,550
区助成金等			
区報配布	180,800	倉庫電気使用料	516
蓬萊町だより	27,893	祭礼助成金	500,000
活動助成金	135,307	子供半纏代金	400,000
リサイクル	87,180		
防災訓練助成金	30,000	次期繰越金	
		現金	50,000
日赤活動手当	12,300	普通預金	2,053,779
計	4,839,311		4,839,311
三井住友銀行預金			
前記繰越金		¥3,629,385	
今期支出(防災資材購入)		¥1,690,292	
次期繰越金		¥1,939,093	
上記の通り、平成24年度決算報告を致します。			
	平成25年5月5日	町会長	大畑 清心 ㊟
		会計	青木 喜一 ㊟
			堀口 克雄 ㊟
監査の結果、上記決算書は正確に処理されていることを認めます。			
	平成25年5月5日	会計監査	藍原 紀久子 ㊟

平成25年度収支予算			
自 平成25年4月1日～至 平成26年3月31日		蓬萊町会	
収入の部		支出の部	
前期繰越金		総務部費	800,000
現金	50,000	文化部費	300,000
普通貯金	2,053,779	婦人部費	200,000
町会費	1,400,000	防災部費	160,000
区助成金等	500,000	防犯部費	100,000
		交通部費	90,000
		盆踊り助成金	300,000
		予備費	2,053,779
計	4,003,779		4,003,779
平成25年度予算を上記の通りと致します。			
	平成25年5月12日	町会長	大畑 清心 ㊟
		会計	青木 喜一 ㊟
			小林 晴彦 ㊟

## 町会活動の概要

平成24年12月から平成25年5月まで

- 12/5 避難所運営協議会全体会議
- 12/7 振り込め詐欺防止高齢者への架電作戦
- 12/9 地区対行事「ケーキVS」
- 12/16 歳末助け合い募金集計作業 ¥186,200
- 12/17 日医大建替工事協議会
- 12/19 大塚みどりの郷 奉仕活動
- 12/23 お寺のよこ運営協議会
- 1/11 文京区 文町会新年会
- 1/13 9分団消防 新年会
- 1/20 蓬萊町 新年会
- 1/24 「Vの木の郷」洗濯たたみ
- 1/28 日医大建替工事協議会
- 1/30 12町会連合町会長 新年会
- 2/11 日赤研修会
- 2/19 駒本小学校学校運営協議会
- 2/24 おくるい会/防災訓練
- 2/25 日医大建替工事協議会
- 2/25 駒本小学校 竹とんぼ教室
- 3/7 駒本小学校スクールガードPTA会指導
- 3/19 文京区立第六中学校 卒業証書授与式
- 3/24 「お寺のよこ」運営協議会
- 3/25 「Vの木の郷」洗濯たたみ
- 3/25 文京区立駒本小学校 卒業証書授与式
- 3/25 日医大建替工事協議会

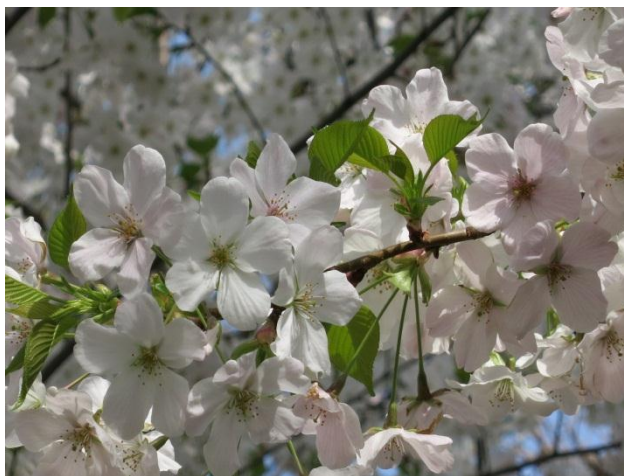
- 3/26 駒込警察母の会推進委員会
- 3/27 駒本小学校避難所運営協議会
- 4/5 根津神社神社 つつじ祭り開苑式
- 4/8 駒本小学校 入学式
- 4/9 第六中学校 入学式
- 4/18 日赤赤十字奉仕団 副分団長承認式
- 4/19 躑躅会
- 4/20 大畑会長就任宴会
- 4/23 日医大建替工事協議会
- 4/24 つつじ祭り甘酒茶屋
- 4/29 部長会
- 5/4 根津神社つつじまつり 警備担当
- 5/12 定期総会
- 5/15 日赤献血
- 5/15 南大塚みどりの郷
- 5/15 振り込め詐欺撲滅キャンペーン
- 5/18 駒本小学校運動会
- 5/23 赤十字募金 募金金額計¥182,250
- 5/27 日医大建替工事協議会

### 訂正

蓬萊町だより第八十二号に掲載した「海蔵寺のてんぷら会」の記事の中で、「二十年位続けている恒例行事」となっておりましたが、「五十六回目を迎える恒例行事」の誤りでしたのでお詫びし訂正いたします。

### お知らせ

恒例の大観音盆踊りが、今年は八月二十五日（日曜日）と二十六日（月曜日）の二日間に渡り行われます。お誘い合わせの上、ご参加頂きますようご案内いたします。



満開になった町内の桜（2013年3月23日撮影）

### 蓬萊町だより編集委員

本城康至 坂本禎一  
大熊敏幸 猪熊良一